

国土交通省 同時発表

平成 28 年 3 月 23 日

## 自動走行ビジネス検討会 報告書『今後の取組方針』をとりまとめました

経済産業省と国土交通省は、平成 27 年 2 月に「自動走行ビジネス検討会」を設置し、我が国が自動走行において競争力を確保し、世界の交通事故の削減等に貢献するために必要な取組を、産学官で検討を行ってまいりました。

本日、これまでに開催された自動走行ビジネス検討会及び検討会の下に設置したワーキンググループ等における議論の結果を踏まえ、『今後の取組方針』をとりまとめましたので公表します。

### 1. 背景・目的

本検討会は、今後の発展が期待される自動走行分野において、我が国がサプライヤを含めた自動車産業全体として世界をリードし、交通事故の削減をはじめとする社会課題の解決に積極的に貢献するために必要な取組を、産学官オールジャパンで検討する目的で設置されました。

平成 27 年 6 月に公表した「中間とりまとめ」では、①関係者が自動走行の将来像を共有した上で、②その実現に向けて競争領域と協調領域を戦略的に切り分け、今後の取組方針を策定すること、協調領域の取組推進の基盤となる③国際的なルール(基準・標準)づくりに戦略的に対応する体制の整備や④産学連携を促進することを基本的な方向として確認し、それぞれについてワーキンググループ等を設置するなどしてさらに検討を進めることとしました。

本報告書は、ワーキンググループ等における議論の結果を踏まえ、今後の取組方針を整理したものです。

### 2. 今後の取組方針の概要

※自動走行のレベル分けに NHTSA(National Highway Traffic Safety Administration: 米国連邦運輸省道路交通安全局)の定義を用いました。

(1)将来像の共有と競争・協調の戦略的切り分け

○自動走行(一般車両 レベル 2、3)

- ・早ければ 2018 年までに、自動走行(レベル 2)を実現する。
- ・協調が重要となる 8 分野を設定し、既存事業も活用しつつ、取組を進める(地図、通信、社会受容性、人間工学、機能安全等、セキュリティ、認識技術、判断技術)。

○自動走行(一般車両 レベル 4)

- ・中間とりまとめ以降、専用空間等でのレベル 4 を先行して検討。
- ・一般交通との混在も含めたレベル 4 について、海外を含め幅広い関係者の考え方を収集して検討を深める。

○隊列走行(トラック レベル 2)

- ・夜間長距離輸送等において、後続車両無人の 3 台以上の隊列走行を実現する。
- ・技術面(電子連結の安全性・信頼性確保等)など解決すべき課題が多いことから、実現に向けて着実なステップを踏む。

○自動バレーパーキング(専用空間 一般車両 レベル 4)

- ・2020 年頃に、専用駐車場における自動バレーパーキングを実現する。
- ・車両と駐車場の役割分担や標準化について、関係者の合意形成を進める。

○ラストワンマイル自動走行(専用空間等 専用車両 レベル 4)

- ・専用空間における自動走行(レベル 4)により、過疎地等における新たな移動サービスを実現する。
- ・他地域にも展開できるモデルとなる実証場所を選定し、事業性の成立するシステムを検討する。

(2) 国際的なルール（基準・標準）づくりへの戦略的取組

我が国が国際的なルールづくりをリードできるよう、基準と標準をつなぐ戦略的な検討を行う場を設置する。

(3) 産学連携の促進

高度な自動走行の実現に向けて、学の担うべき役割や分野等について引き続き検討する。

(本発表資料のお問い合わせ先)

製造産業局自動車課長 伊吹

製造産業局自動車課電池・次世代技術・ITS 推進室長 吉田

担当者: 田中

電話: 03-3501-1511(内線 3831~3836)

03-3501-1690(直通)

03-3501-6691(FAX)